

地域連携推進会議 議事録

会議名	すみれホーム地域連携推進会議	
開催日時	令和7年10月29日(水)13:00~15:00	
開催場所	すみれホーム (はまなすホームリビング)	
出席者	推進委員	出席5名 ・ Iさん (利用者さん) ・ Nさん (ご家族) ・ Oさん (地域の関係者) ・ Iさん (福祉に知見のある人) ・ Nさん (市町村の障がい福祉担当者)
	学 園	出席4名 ・ 和田 敏幸 管理者 ・ 坂井 志帆 管理者代行 ・ 高橋 貴余民 サービス管理責任者 ・ 高橋 修 鶴が丘学園副園長
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 推進委員の紹介 3. すみれホーム見学会 4. 管理者挨拶 5. 地域連携推進会議 <ol style="list-style-type: none"> (1) 法人の概要 (2) 事業所の概要 (3) サービスの透明性・質の確保について (4) 利用者さんの日常 (5) 地域との連携について (6) 利用者さんの権利擁護について 6. 閉会 <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 法人概要 ・ 施設概要 ・ 説明資料 ・ 事業継続計画 (災害・感染症) 	

議 事 内 容

1. 開会 (13:00)

2. 推進委員の紹介 (管理者代行より)

3. すみれホーム見学

- 1) 葵
- 2) すずらん
- 3) すみれ
- 4) はまなす

4. 管理者挨拶 (和田管理者より)

1) 地域連携推進委員会の目的について

(1) 事業所と地域との連携による ①利用者さんと地域との関係づくり、②地域の人への施設等や利用者さんに関する理解の促進、③サービスの透明性・質の確保、④利用者さんの権利擁護を目的に、事業所が設置する外部の目を入れる会議。

(2) 会議の開催や見学等により閉鎖的になりがちな福祉事業を風通しの良いものにするために意見を交換し合い考えていく場にしたい。

2) 委員の選任について

3) 本日の会議の流れ

5. 地域連携推進会議 (13:35)

1) 社会福祉法人釧路愛育協会の説明 (管理者より)

2) 共同生活援助事業所すみれホームの概要説明 (管理者代行より)

3) サービスの透明性・質の確保について

(1) 事業所の状況

【令和6年度の事業報告より】、【令和7年度事業計画より】

(2) B C P (事業継続計画) の状況

・災害の B C P、感染症の B C P

4) 利用者さんの日常

・クッキング、利用者懇談会、花壇整理、家庭菜園、余暇時間の過ごし方等について写真付き資料で説明

5) 地域との連携について

・町内会への参加の様子、ふれあい広場、地域の方とのお茶会、クリーン活動旅行、日常における交流について写真付き資料で説明

《課題》

- ・町内会での行事が減少しているなかで、どのように町内会の取り組みに参加していくか
- ・高齢の利用者さんも増えてきて、行事に参加することも難しくなっている

- ・すみれホームとして地域の中で、もっと知ってもらい理解してもらえそうな発信を模索する必要がある

(質問・意見等)

質問：平均年齢は？

回答：一番若くて 22 歳、最高齢は 75 歳、男性の平均年齢は 60 歳、女性の平均年齢は 56 歳、全体の平均年齢は 58 歳

意見：

- ・比較的軽い方が入られていると思った。見学でお部屋を見せてもらったときに大きい家具だけではなく、小物もたくさんあり部屋をカスタマイズしていた。本人の希望が保証されていると感じた。共有スペースに観葉植物が置かれていることも地域により近い生活をしていると思った。

[事業所より]

- ・カスタマイズできているという聞こえはいいが、障がい特性による収集癖とも考えられ課題でもある。本人と相談して多くなりすぎないようにすることも必要となっている。植物も趣味からきているところもあり、増えすぎてしまうこともある。

意見：

- ・集団生活の中では制限されることもあると思うがグループホームとしては好ましくないことも許容しているところが本人を尊重していると感じた。関わりについても自然と部屋をノックして入っていてご本人の部屋として扱い「おじゃまします」という気持ちが見えた。

質問：耳の聞こえない方が入居していると説明があったが、非常時について何か工夫はされているのか？

回答：部屋の中で光ってお知らせする方法も考えたが、夜間寝ているときには効果がないので、非常時には優先的に訪室して支援をするようにしている。

6) 利用者さんの権利擁護について

(1) 虐待防止の取組み

《課題》

- ・グレーゾーンに対応となるようなことについて、現状の環境では改善も難しいこともある中で、今後は実効性のあることから取り組む
- ・虐待防止委員会主導による研修を年 4 回以上開催し、虐待の現状や傾向を把握するとともに、事例（具体的な場面等）の検討を行うことで自分の支援の振り返りを行い、常に利用者さん本位の支援を実践できるように取り組む
- ・主に生活支援員が研修を受けているが、他の職種の職員も研修を受ける機会を設け、権利擁護の理解と習得を行う

(2) 苦情の状況

《課題》

- ・ホームの近隣には住宅も多く、学校、幼稚園などの子どもたちに関連する施設も多

数ある。色々な人の目があることを常に意識して支援する必要がある

- ・障がいを持つ利用者さんが地域のなかで生活していることを、たくさんの人知ってもらわなければならない

(3) 事故防止対策

《課題》

- ・多職種の職員がいる中での情報共有、周知の仕方などを工夫する必要があり、支援日誌の様式を変更して対応をする
- ・高齢の利用者さんも増えてきているので、今後のはどつまりや転倒など重大な事故に繋がる危険が増えることを認識し、事故を防止していく

(4) 研修等の状況

《課題》

- ・鶴が丘学園の研修委員会と連携し研修に参加しているが、参加する職員に偏りが出てしまう
- ・生活支援員だけでなく、夜間支援員、世話人などの職種も研修を受けられる体制、および内容を考えていく必要がある
- ・外部研修に参加することで職員体制維持が難しくなることもあり、参集の研修にはなかなか参加出来ない
- ・職員のスキルアップのための研修をもっと取り入れることが必要

《推進委員からのご感想・ご意見》

(Iさん)

- ・みんなお部屋を見てくれて「きれいね」と言ってくれて嬉しかったです。

(Nさん)

- ・定期的に訪問した際もお部屋などをいつもきれいにされている。また、職員もニコニコされて対応してもらっている。クリーン活動も地域の方たちに知ってもらえる活動として素晴らしい活動だと思います。

[事業所より]

- ・町内会活動をさせてもらって参加することも大切だが、ホームがこの地域にあることを発信していくことも大切と思い今年度クリーン活動を始めた。ほかにもキッチンカーをホームに呼び地域の人に来てもらうような行事も今後進めていきたいと思っている。

(Oさん)

- ・同じ町内会でここにホームがあることを知らず今回参加して初めて知ることができた。少ない職員でご苦労されながら対応していると思った。町内会として役に立てることがあったら協力させてほしい。

(Nさん)

- ・町内会とか自治会との連携をよくとられていると感じました。今後はホームから発信する活動も考えているとのことで、グループホームが地域に根差していけるようにしてもらいたい。近隣に学校関係も多く連携していくことも考えられると思う。地域の方と主

に利用者さんが住みやすいグループホームを目指して行ってください。

(I さん)

- ・ 掲示物にも注目してみたが、部屋の名前や各所のボードにある名前も「さん」をつけていた。また、「仲良くしましょう」という掲示物などもあり職員との普段の関わりが垣間見えた。世話人さんという職種においては障がいについての学習をせず働いていることがあると思うが、セルフチェックリストは世話人さんもされていますか？また、そのフィードバックはどのようにしていますか？

[事業所より]

- ・ 世話人さんもセルフチェックリストをしています。チェックリストの集計は会議等で周知したり研修等で振り返りをしている。世話人さんが会議や研修に出ておらず、会議録を参照してもらってはいるがしっかり届いているとは言えない状況である。

(I さん)

- ・ 地域と積極的にコミュニケーションを図られていると感じた。町内会の行事に参加したりして顔なじみになることで、グループホームに住む方の障がいの特性を理解してもらえることにつながり、有事の際にも協力してもらいやすくなる。地域に開かれた事業所になることが大事。事故の内容についてもそこがあるとよかったかもしれない。

[事業所より]

- ・ 先日の津波警報の時も明輝高校に避難させてもらったが、「すみれホームの方たちですね」とすぐに受け入れてもらった。知ってもらっていることが大事だと実感した。

6. 閉会（和田管理者より）

- ・ 町内会の方に質問ですが、町内会としてはホームの方が町内会に参加されていることをどのように考えていますか？

(O さん)

- ・ いろいろな町内の行事に参加されている。私もそうだがここが何の建物か、どんな人が暮らしているかわからない方もまだいると思う。参加されることに違和感はないです。

様々なご意見をいただきありがとうございました。これからの運営に役立てていきたいと思えます。今後もすみれホームの運営へのご協力をよろしく願いいたします。

～今年度のすみれホーム地域連携推進会議の成果として～

- ・ すみれホームの利用者さんやホームでの取り組みを知ってもらい興味を持っていただくことができた。
- ・ 地域での町内会活動に参加していることを評価していただき、利用者さんが地域の住民として暮らし、地域のなかであたり前に生活できることを重点に運営していく。
- ・ 地域の行事に参加するだけでなく、すみれホームから色々なことを発信することにより、より多くの人にすみれホームを知ってもらい受け入れてもらうことの重要性を知り、今後は『発信力』を課題とすることを認識できた。